

様式7

「学校」部門

河川基金助成事業
(河川教育部門 教育活動アドバンス)

「ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成」
報告書

助成番号：2019-7212-017

福岡県北九州市木屋瀬小学校

校 長 淵上 正彦

実施主担者 志比田心平

2019 年度

助成番号	助成事業名			学校名		
2019-7212-017	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成			北九州市立木屋瀬小学校		
校長名	淵上正彦	担当教諭名		志比田心平		
過去の助成実績	なし					
キーワード	遠賀川 木屋瀬宿記念館 流れる水の働きと土地の変化 土地のつくりと変化					
対象児童生徒	5年生68名 6年生81名					
対象河川名	遠賀川	活動場所の指定状況		なし		
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ						
テーマ	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成					
ねらい	ふるさとの自然と親しみ触れ合うことを通して、自ら学習に取り組み解決する子どもを育成する					
評価の観点	学習を楽しんでいる子どもの数					
活動時期	令和元年4月から2月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習(理科)	各教科学習(社会科)	学校行事	その他()	合計
上記の活動時間数	10時間	40時間	8時間	10時間	時間	68時間
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	博物館から学芸員のレクチャー 思考の種まきである体験活動では、昆虫博士、地元金型工場の技術者、光ディスク開発者、自由研究上位入賞者、PTAなどから講演や昆虫展、参加者の誘導等開催補助					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位 対外発表（	学年単位	学校全体	理科展、木工作品展多数出品 多数入賞		
安全対策に関する課題						
遠賀川は深く、流れも速く危険なので、子どもだけで近付くことは固く禁止している。遠賀川近辺の自然や長崎街道木屋瀬宿記念館、木屋瀬小学校をフィールドとして使用した。科学実験屋台や講演会はたくさんの実験観察を行うので、PTAや北九州市理科教育研究会会員の協力で開催することができた。						
活動の成果と今後の課題・展開						
本校の児童は、素直で指示されたことに真面目に熱心に取り組むが、自分で問題を発見して、既存の知識・概念を活用して問題を解決することが苦手である。しかし、これからの時代は、頻繁に起こる自然災害や未知のウイルスとの戦いなど未曾有の事態に立ち向かうために、学習を自分と関係の深い大切なアイテムと感じて、事実を見極め、正しい知識とをもとに解決の糸口を探り、命を守る行動を取ることが求められる。そのために、本校では、体験の少ない子どもたちのために、目の前の事象に対して「あれ」「なぜ」「ふしぎ」を感じる感性を涵養することを第一に取り組んだ。それが思考の種まきで、学校の至る所に自然・科学との出会いを仕組み、地域を巻き込み親子で参加できる大規模なイベントも開催した。また、地域で活躍する工場の技術者の話を聞く機会も設定した。また、学習もただ教科書通りに進めるのではなく、学校の中の自然や地域の自然を用いて教材化して働きかけるようにした。その成果として、生き物に積極的に触れ合う児童が増え、理科の学習が楽しいと答える児童が増大した。今後も地域の自然事象や施設、歴史・文化・人を題材にした教材開発と提示や問いかけ方を工夫し、児童の好奇心を駆り立て、主体的に問題解決に取り組む児童を育成していきたいと考える。						
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	アドバンス部門	教育活動	地学調査系	川の上流・下流	4月から2月	
			地学調査系	地層	4月から2月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

アドバンス 活動報告書









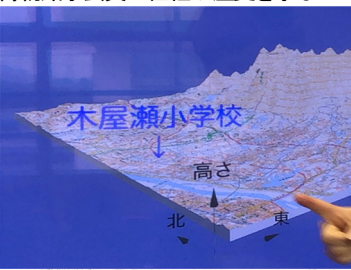


(NO. 1)

1.助成事業名					学校名	北九州市立木屋瀬小学校				助成番号	2019-7212			
2.単元名	遠賀川と共に生きる木屋瀬の自然と私たちの暮らし													
3.目標	長い時間と広い空間認識ができる6学年児童が、校区にそびえる金剛山、山裾に広がる平地と中を流れる1級河川遠賀川、そこに生きる生物と大地の形成の歴史を知り、未来を予測することができる。													
4.実施学年 人数	6年81名													
5.場所	遠賀川、学校内、校区の崖、遠賀川上流の地層、遠賀川中流の地層													
6.単元構想 (総時間数)														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
6学年・単元目標	植物や動物の体のつくりと働き				思考の種まき			土地のつくりとはたらきと変化				生物と地球環境、そして未来		
	植物や動物が生命を維持させるために、環境に適合して、水、空気、日光、食べ物など身の回りの環境を体に取り入れる仕組みと生命活動に活かす働きをしていることを学ぶ。地域で長年生きて大きく成長したシンボルツリーを見て、自らの生き方に活かす。				親子で参加できる休日の夜を使った科学イベントを開催することを通して、科学に関心を持ち、発見する喜び、考える楽しさを味わわせる。			校区を流れる遠賀川流域に形成される土地のつくりとはたらきを地元中流から下流に向かって学ぶことにより水の働き(浸食・運搬・堆積)と土地のつくりとはたらきを知る。また、校区の福智活断層を知り、土地の変化を学ぶ。				46億歳の地球と生物のかかわりを水・空気などの環境に依存して生きていることを多面的に調べまとめる。		
主な学習活動	ものの燃え方 ・燃焼時は酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する。 植物の成長と日光 ・日光と葉で生成する養分の関係 人の体のつくりと働き ・呼吸、循環、消化、吸収する体のつくりと働き 生物が生命維持させるのに必要としている物	ハウセンカの水と養分の通り道 人と植物の体のつくりと働きの共通点 ・水と養分を体に取り入れ循環させ排出している。 自分で移動できない植物が生きる知恵	木屋瀬のシンボルツリー「メタセコイア」の水と養分の通り道 校舎をはるかに超える木の幹は、しっかりと張り巡らした根に支えられている 遠賀川の河川敷のイチヨウの木は車道が避けて通る	木屋瀬科学フェスタ 松田勝弘氏の昆虫展 昆虫教室・昆虫採集 自由研究上位入賞者児童のプレゼンテーション 光ディスク開発者秘話 ふしぎ科学屋台 地元金型工場の技術者	校区の崖(地層)に不思議がある 「小さな丸い石が直線と並ぶ地層はどのようにしてできたのだろう」 流れる水の働きと土地のつくりに関心を持ち、遠賀川沿いの土地のつくりを調べる。	遠賀川の下流(海岸沿い)に綺麗なシマシマ模様の地層があること、中に貝の化石が入っていることを知る。実物を手に取って観察する。 中流には石炭が含まれた地層があることを知る。 流れる水の働きで地層ができることをモデル実験で調べる。 校区には平地と山の間には福智断層があり	いのちの旅博物館学芸員の森先生に、遠賀川沿いの土地のつくりの特徴と歴史、北九州市内の土地のつくりとはたらき、福智断層を主とした土地の変化、地球規模の土地の変化、また学芸員の仕事についてレクチャーを受ける。	地球規模で生物と環境のかかわりについてとらえ、自分が現在の環境について興味があることや、追究したいことを決めてまとめ、未来のために自分ができること、していくことをまとめ発表する。						
	評価項目	燃焼時に空気中の酸素を取り入れ二酸化炭素を排出していること、動物は生命維持するために酸素を取り入れ二酸化炭素を排出していることを理解する。	自ら移動できない植物は地中深く根を張り巡らして水を取り込み、太く強い茎で体を支え、葉を広げて日光を受け養分を作りだしていること。また、葉から水分を蒸散して水をポンプのように吸い上げる仕組みをもつことを理解する。	中庭にそびえ立つ、メタセコイアの木は、ハウセンカと同じように、根・茎・葉で大きな体を支え、地中深く根を張り、水分と養分を吸収している。努力してメタセコイアのように小学校の間にしっかりと根を張り巡らそうとする意欲をもつ。 	自由参加ではあるが、保護者と児童がいっしょに体験できる科学イベントを企画した。 様々な科学体験を通して、身近な自然に関心を持ち、学ぶ意欲や学ぶ意味を感じることができる。	身近な土地のつくりと変化に関心を持ち、5年生で学習した水の流れと働きの知識を活用して、土地の形成の過程を予想し、調べようとする意欲を持つことができる。	流れる水の働きで地層が形成されることを観察・実験を通して、確かめることができる。 また、火山の爆発で火山灰が堆積して地層ができることもあることや、遠賀川沿いの土地も身近な土地と同じように流れる水の働きで形成されたことを、中に含まれる化石などから予想し、理解することができる。	校区に福智活断層があることから、木屋瀬の土地は大きな地震が繰り返し起きて山と平地ができていること、地球上の地面は少しずつ動いて、長い年月をかけて、変化を続けていることを理解する。また、学芸員の仕事について聞いて、働くことへ興味・関心をもつ。	46億歳の地球が誕生から今日に至るまで成長と変化を続けてきたこと。生物は環境に依存して生きていることから、美しい地球環境を守ることが未来の生物や私たちを守ることに繋がると理解し、行動することができる。					

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

1.助成事業名	学校名	北九州市立木屋瀬小学校	助成番号	2018-7212-
---------	-----	-------------	------	------------

7.実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2											
	生物の体のつくりと働き、人との関わり			思考の種まき		木屋瀬の土地のつくりと変化			思考の種まき		木屋瀬の先人に学ぶ											
	<p>木屋瀬に住む生物と植物や動物が生命を維持させるために、環境に適合して、水、空気、日光、食べ物など身の回りの環境を体に取り入れる仕組みと生命活動に活かす働きをしていることを学ぶ。学校や地域で長年生きて大きく成長したシンボルツリーを見て、自らの生き方に活かす。</p> 			<p>校區を流れる遠賀川流域に形成される土地のつくりとはたらきを地元中流から下流(海)に向かって学ぶことにより水の働き(浸食・運搬・堆積)と土地のつくりとはたらきを知る。また、昔大陸とつながっていたこと、湖の中であったこと、石炭の地層があることや校區の福智活断層で地震が起こり土地が変化していることなどを学び、長い時間をかけて形成された土地のつくりと変化を学ぶ。</p> 		<p>校區で世界一のシェアを誇る金型工場の技術者に、開発の秘話や開発にかける情熱や努力、開発成功の喜びなどを聞いて学ぶ。</p> 			<p>身の回りの生物の変化に気付かせる環境(働きかけ)を作る</p>  <p>ツマゲロヒョウモンのような</p> <p>ホウセンカの水の通り道を調べよく観て考える</p>  		<p>学校のシンボルツリー(メタセコイア)を調べる</p>  <p>メタセコイアのように大きく育つためにしっかりと根を張ろう(学ぼう)と訓話</p>  <p>木屋瀬は木を大切にす町(木を切らず車道が避ける)</p> 		<p>思考の種まき 科学の夜フェスティバル1 子供のための昆虫展</p>  <p>全学年昆虫教室</p>  <p>自由研究トップ児童のプレゼン</p>  <p>ものづくりレクチャー 光ディスク開発者の話</p>  <p>台風接近で科学実験屋台・地元工場の講演2は延期に</p>		<p>自分の住む地域の中に「はてな」を見つける</p>  <p>丸石が並んでいる地層 ⇒なぜこんな場所に？</p>  <p>斜めに線が入っている地層(遠賀川下流の地層) ⇒なぜ斜めなのだろうか？ Q どのようにして地層はできるのだろうか？</p> 		<p>丸い石は川の下流にあるはず？</p>  <p>土の粒の大きさや水の流し方を変えて、モデル実験してみる</p>  <p>やはり木屋瀬の土地は、流れる水の働きで形成されたのだ。 Q 遠賀川の下流や北九州市全体の土地も同じように形成されたのだろうか</p>  <p>遠賀川</p> <p>木屋瀬小</p> <p>丸石地層</p>		<p>博物館学芸員に仕組や歴史を学ぶ</p>  <p>自分はいつも歩いているところが何年前にできたのからいこうことを知らずいたので3500年前に陸からできたときとてどもひっくり返りました。土地は、陸と海が少しずつ変化しながらできているということが一番心に残りました。私は、陸はすーっととまるとも思っていたけれど、つねづね動いていると聞いてとてもびっくりしました。ゴニパスに鏡がついていたりおしり道具がいっぱいあって興味がありました。木屋瀬は、ちくからの歴史があって今の木屋瀬があるということが分かりました。石炭を掘ってとれたてに聞いて木屋瀬とはすごいところなんだと改めて感じる事ができました。とても興味があわくような話で楽しかったです。</p> 		<p>7月に開催予定だった科学フェスタ2の実現 科学フェスティバル2(科学実験屋台)</p>   <p>世界一のシェアを誇る地元金型工場の講話</p>  <p>開発への思いや努力、喜びに学ぶ</p>	

8.成果と課題

本校の児童は、素直で指示されたことに真面目に熱心に取り組むが、自分で問題を発見して、既存の知識・概念を活用して問題を解決することが苦手である。しかし、これからの時代は、頻繁に起こる自然災害や未知のウイルスとの戦いなど未曾有の事態に立ち向かうために、学習を自分と関係の深い大切なアイテムと感じて、事実を見極め、正しい知識とをもとに解決の糸口を探り、命を守る行動を取ることが求められる。そのために、本校では、体験の少ない子どもたちのために、目の前の事象に対して「あれ」「なぜ」「ふしぎ」を感じる感性を涵養することを第一に取り組んだ。それが思考の種まきで、学校の至る所に自然・科学との出会いを仕組み、地域を巻き込み親子で参加できる大規模なイベントも開催した。また、地域で活躍する工場の技術者の話を聞く機会も設定した。また、学習もただ教科書通りに進めるのではなく、学校の中の自然や地域の自然を用いて教材化して働きかけるようにした。その成果として、生き物に積極的に触れ合う児童が増え、理科の学習が楽しいと答える児童が増大した。今後も地域の自然事象や施設、歴史・文化・人を題材にした教材開発と提示や問いかけ方を工夫し、児童の好奇心を駆り立て、主体的に問題解決に取り組む児童を育成していきたいと考える。

※「生物と地球環境、そして未来」については、新型コロナウイルス感染防止で学校が休校になったことから、学習内容を知ることはできたが、まとめ発表するまでには至らなかった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-721 2-017	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子ども の育成	北九州市立木屋瀬小学校



フィールド：校区の崖

日付：令和元年10月8日

コメント：本校区はほぼ平地であるので、崖は少ないが、丸い小さな石が一直線に並ぶ小さな崖が田んぼ沿いにある。なぜこんなところに流れる水の働きでできた石が並んでいるのか、導入で丸い石と写真を持ち込み、グループで話し合うことから問題把握をさせた。



フィールド：校区の崖

日付：令和元年10月6日

コメント：小さな石が一直線に並んだ不思議な崖



フィールド：木屋瀬小教室

日付：令和元年10月8日

コメント：木屋瀬校区の崖の写真と一直線に並んだ石の写真、丸い石の現物を児童に渡し、この土地がどのように形成されたのか予想させ、グループで話し合わせた。

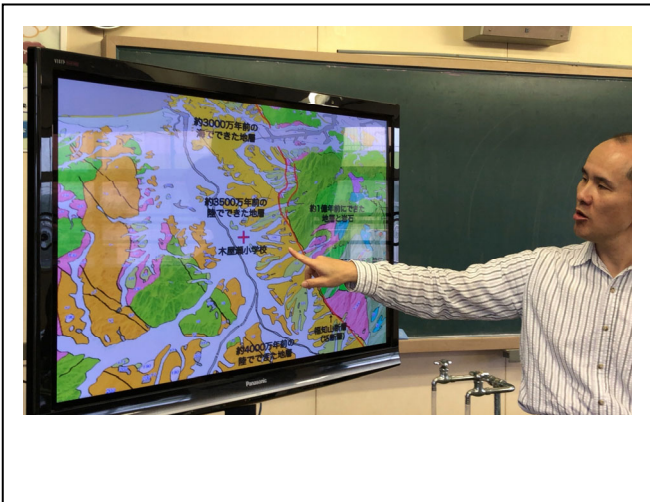
助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-721 2-017	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子ども育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 瀬上正彦



フィールド：木屋瀬小理科室

日付：令和元年10月

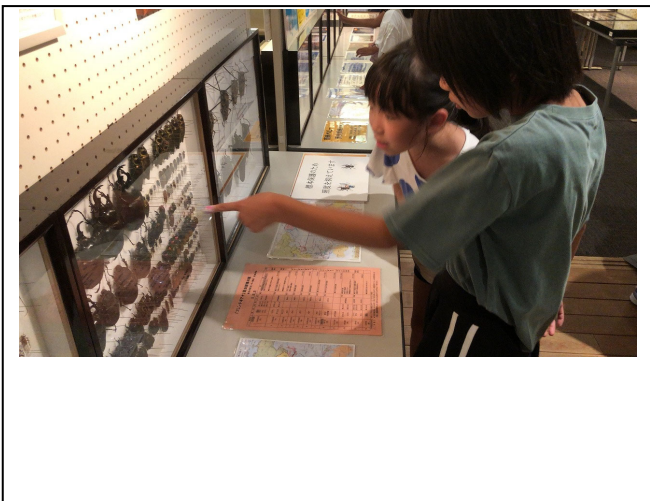
コメント：地層のでき方を知るためにモデル実験をした。3種類の土（小石、砂、泥）を混ぜて入れ、流し方の強さも変えて、何回かに分けて実験した。



フィールド：木屋瀬小理科室

日付：令和元年10月

コメント：北九州市いのちの旅博物館の学芸員、森康先生に木屋瀬校区の土地の歴史や地球の土地の変化についてレクチャーしてもらった。



フィールド：長崎街道木屋瀬宿記念館

日付：令和元年7月17日

コメント：木屋瀬校区に立つ木屋瀬宿記念館で昆虫展を開催していただいた。100ケース近くの標本箱を持ち込み。北九州の昆虫や世界の昆虫について紹介して頂いた。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-721 2-017	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子ども の育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 瀧上正彦



フィールド：生き物紹介コーナー

日付：令和元年4月26日

コメント：学校の廊下に生き物コーナーを作り、子どもたちが、校区内の自然に関心をもてるようにしている。



フィールド：木屋瀬小体育館

日付：令和元年7月20日

コメント：修了式で科学フェスタで使う不思議実験のアイテムを紹介して科学への関心を高めていった。写真は巨大空気砲。



フィールド：木屋瀬小視聴覚室

日付：令和元年7月18日

コメント：木屋瀬の昆虫に興味をもたせるため、木屋瀬宿場記念館において、昆虫博士松田勝弘先生に昆虫展を開催してもらった。全学年に対する昆虫教室を開催してもらった。3・4年生は、昆虫採集も遠賀川川原でもらう予定だったが雨のため中止となった。そこで、松田先生が持っている、ナナフシやクワガタなどを、持ち込んで触らせてもらった。

注) 写真は5～6枚程度(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212-017	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 瀧上正彦

主な実施箇所	長崎街道木屋瀬宿記念館
--------	-------------

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万~1/100万程度)

助成事業の主な実施箇所



アドバンス 活動報告書










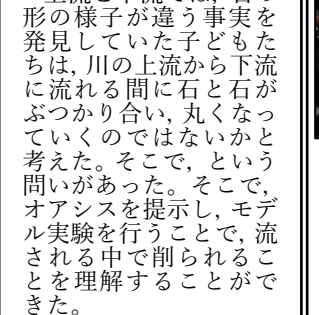




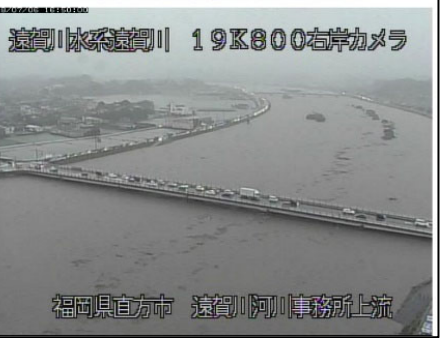
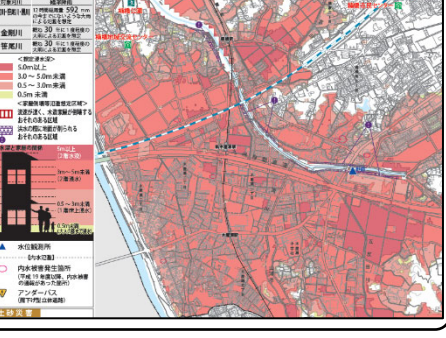
(NO. 1)

1.助成事業名	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成	学校名	北九州市立木屋瀬小学校	助成番号	2019-7212
2.単元名	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成				
3.目標	身の回りにいる水生生物との出会いから、水に興味関心をもち、流れる水がもたらす影響や地域の河川による自然災害から身を守ることを考えることができるようにする。				
4.実施学年 人数	第5学年 64名				
5.場所	校内、遠賀川、木屋瀬宿記念館、校区にある用水路、鱒淵ダムの支流（紫川の源流）				
6.単元構想（総時間数）	理科，社会科，総合的な学習の時間，学校行事 総時数83時間				

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
5 学 年	水と木屋瀬（地域・自然）とのかかわり40時間			流れる水のはたらきと水害を防ぐ地域の防災35時間					日本各地で起こった水災害の被害と対策8時間					
	理科：天気の変化，植物の発芽・成長，メダカのたんじょう 総合：地域の宝「木屋瀬宿」 地域行事：木屋瀬科学フェスタ			行事：自然教室「紫川源流での川遊び体験」 総合：welcome to Koyanose ようこそ歴史ある街へ 理科：流れる水のはたらき ～国土交通省遠賀川河川事務所の方と学ぶ～					社会科：国土の自然とともに生きる					
主 な 学 習 活 動	理科：天気の変化 ・校庭で寝転び、空の様子を観察 ・雲が動いていることに気付く ・雲の動きを、気象衛星の写真やアメダスから読み取り、天気を予想する 理科：植物の発芽・成長 ・作付けしていない学年園の観察 ・水やりをしていないのに雑草がある ・土の中が湿りや気象との関係から、目に見えなくても水があることに気付く 総合：地域の宝「木屋瀬宿」 木屋瀬宿の歴史を、歴史資料や資料館などを活用して調べる。 ・約400年前から、身近にある遠賀川と人が共生していた ・水災害を克服してきた人々 ・運輸で川を利用してきた ☆私たちの地域は、宿場の歴史の中で、水と密接に関わりがあることを実感する。 地域行事：木屋瀬科学フェスタ 科学体験のイベントを、学校・地域で協力して行い、20の体験コーナーを実施した。 ・微生物の観察やスライムづくりなど、普段の学習では体験できない活動を設定する ☆自然の中にある不思議や科学体験を補充する。また地域と連携できるきっかけ		行事：自然教室「紫川源流での川遊び体験」 実際に川に入り、水の中で感じたことや、周囲の土地の様子などから流れる水のはたらきや自然に対する不思議さに気付く。 ・流れている水が、落ち葉や木片を流している ・川の内側と外側では深さが違う ・石の形は手に取れる大きさのものが多く、丸みをもっている ・中流付近の川幅は、遠賀川に比べて狭い ☆源流で直接体験をすることで、自然の中から疑問を発見する		理科：流れる水のはたらき 流れる水のはたらきについて、遠賀川の観察やモデル実験から追求する。 ・紫川源流の体験活動から、流れる水のはたらきを予想する ・流水実験を行い流れる水のはたらきを確かめる ・紫川源流（中流域）と遠賀川（下流域）の様子を比較し、川の様子や石の特徴を確かめる。 ・石が丸みを帯びる現象を、モデル実験を行うことで再現する ☆身近な河川や体験活動を基に根拠をもって予想し、問題解決を行う		理科：国土交通省遠賀川河川事務所の方と学ぶ 水災害が起きないように、普段から防災に取り組んでいる河川事務所の方々の取組について知る。そして、自分たちにできることについて考える。 ・九州北部豪雨や大雨の際の資料から、遠賀川の様子の変化について知る ・治水についての取組や事務所の方の願いについて学ぶ ・ハザードマップを基に、自ら行動することや避難準備の大切さに気付く ☆学習したことを自分たちの生活に還す。		総合：welcome to Koyanose 今まで宿場町について調べてきたこと、そして水との共生に先人たちが工夫してきたことなどをまとめ、発表会などで披露する。 ・水災害に苦しんだ過去、水を運輸で活用し、発展した歴史 ・劇の台本を子ども自ら考える ・宿場踊りや祇園太鼓などの実演披露 ☆学びを子ども自らまとめ、発信する。		社会：国土の自然とともに生きる 日本各地で起きた自然災害について学び、木屋瀬地域の防災の取組と、これからの自分の生き方について考える。 ・東日本大震災などの地震による1・2次災害の発生と、被害の大きさ ・災害発生時の暮らしの変化と、人々の努力 ・石巻市の非難の様子を知り、九州北部豪雨がおこった時の自分たちの行動を振り返る。 ☆今後災害にであった時の対応の仕方について考え、防災の意識を高める。			
	評 価 項 目	・雲や土の中など、直接触れて実感することができない中に水が存在し、私たちの生活に密接に関係していることに気付くことができる。 ・遠賀川や用水路など、水が絶えずあることに気付き、どこからどのように水が流れてきているのかについて疑問をもつことができる。 ・地域の自然に進んで関わり、植物や動物などに興味関心をもって、探究活動を行っている。		・木屋瀬地域には宿場の歴史があることを知り、伝統を受け継いでいくことや、遠賀川と共生してきた先人の知恵について、興味をもって探求しようとしている。 ・科学体験や観察などの活動から、自然や科学に対して興味を深めることができる。		・直接川で体験する活動を通して、流れる水に対する疑問をもつことができる。 ・石や河原の様子を観察する活動を通して、遠賀川の様子との違いに気付き、疑問をもつことができる。		・紫川での体験活動や身近な川の様子を基に予想を立て、問題解決の見通しをもつことができる。 ・モデル実験から、流れる水のはたらきについて理解することができる。 ・実験の結果を、写真資料や現地観察などから比較し、学びを関係付けて考えることができる。		・河川事務所の方の取組から、防災に取り組む人々の思いや願いについて理解することができる。 ・ハザードマップから木屋瀬地域委は浸水4mの場所であることに気付き、自ら防災に取り組もうと考えることができる。		・400年前から宿場町として栄えた木屋瀬について、伝統を守ることの大切さや、地域に対する誇りなどを相手に伝えることができる。		・木屋瀬で学んだ水災害に対する防災の取組だけではなく、自然災害に対する取り組みの大切さに改めて気付き、今後の生活の仕方を考えようとする。

1.助成事業名	ふるさと木屋瀬の自然と共に生きる子どもの育成	学校名	北九州市立木屋瀬小学校	助成番号	2019-7212
---------	------------------------	-----	-------------	------	-----------

7.実際に行った単元構成 **注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。**

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2																	
	水と木屋瀬（地域・自然）とのかかわり40時間				流れる水のはたらきと水害を防ぐ地域の防災35時間				日本各地で起こった水災害の被害と対策8時間																			
	理科：天気の変化、植物の発芽・成長、メダカたんじょう 総合：地域の宝「木屋瀬宿」 地域行事：木屋瀬科学フェスタ				行事：自然教室「紫川源流での川遊び体験」 総合：welcome to Koyanose ようこそ歴史ある街へ 理科：流れる水のはたらき ～国土交通省遠賀川河川事務所の方と学ぶ～				社会科：国土の自然とともに生きる																			
5学年	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に空の観察を行ったり、学年園の観察を行ったりする活動を通して、休み時間だけではなく、朝休みや放課後まで自然の中で不思議を見つけようとする興味、関心を高めることができた。  <ul style="list-style-type: none"> 自ら見出した問題を解決する活動を設定したことで、子どもが子どもたちに説明する場面がうまれた。植物の発芽では、水の条件の有無に対して、水没した種子とそうでないものを比較して、自分の考えを述べていた。  <ul style="list-style-type: none"> 地域の水路を観察したり、少人数でメダカを飼育したりすることで、水生生物への興味が高まり、校内や校区の自然観察をする姿が見られた。 				<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料館のガイドさんの話や資料から、遠賀川と宿場町の関わりを知った。また当時と今の河川の様子の違いを比較することで、自分たちの生活が昔から遠賀川と密接に共存してきたことを学んだ。  <ul style="list-style-type: none"> 鎮国時代に長崎から西洋の文化が木屋瀬を通じて江戸まで伝わったことや、船を使って、運搬の産業が盛んであったことなど、木屋瀬地域の歴史に触れたことで、地域に対する愛着が深まった。 <p>地域行事：科学フェスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学体験の場を地域と学校が連携して行った。約400人の子どもや保護者が当日来てくれた。子どもたちは目を輝かせて体験をしていた。また、保護者からも、賛同の意見が多く上がった。 				<p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 紫川源流の体験から、自然の中の水は思っていたよりも冷たいこと、そして、足が押される感覚が想像以上だったことなどを実感することができた。  <ul style="list-style-type: none"> 周囲の石の様子調べや生き物調査の体験活動することで、石ががっていることや、川底の石陰に昆虫が住んでいる事に気付いていた。  <ul style="list-style-type: none"> 教室では実際に感じることでできない体験活動を通して、子どもたちは川（流れる水）に対して、もっと上流はどうなっているのか、遠賀川の様子とどう違うのかなどの疑問をもつことができていた。 				<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然教室の体験活動から、子どもたちは水がものを押し流す事に気付きを多く持っていた。それを基に、予想を立てたり、実験方法を考えたりすることができた。  <ul style="list-style-type: none"> 上流と下流では、石の形の様子が違う事実を発見していた子どもたちは、川の上流から下流に流れる間に石と石がぶつかり合い、丸くなっていくのではないかと考えた。そこで、という問いがあった。そこで、オアシスを提示し、モデル実験を行うことで、流される中で削られることを理解することができた。 				<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習後に国土交通省遠賀川河川事務所の方に来ていただき、遠賀川の河川災害や治水の取組について話していた。  <ul style="list-style-type: none"> 地域の川の成り立ちや防災の取組を学んだ子どもたちは、実際に川を見に行きたいと関心が高まった。そこで、校外学習として、実際に遠賀川へ行き、守られている河川の様子を見学した。 				<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 木屋瀬宿場の歴史と伝統、遠賀川流域で川とともに共存してきた人々の知恵などを、劇やポスターにまとめ、学習発表会で披露した。  <ul style="list-style-type: none"> 台本作りから子どもたちが制作したことで、特に運搬で栄えた歴史には印象強く残っていた。当時、象やラクダなどの大型動物を運んだことまで伝えようと、台本に入れ、演技することができた。 				<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州北部豪雨の際の遠賀川の写真を提示し、ハザードマップを提示した。水災害の恐ろしさは、今までの学習で学んでいたため、早く避難することや日ごろから非常用の道具を用意しておくことの大切さについて話し合った。  <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降ると上流で降った雨が小さな川に集まり、小さな川の水が全て遠賀川に集まり、大水害を引き起こす可能性があることを学んだ。どの警戒レベルで避難すればよいか調べ、家庭と共に自分の命を守る行動がとれるように計画を立てることができた。 			

8.成果と課題

- 身近にある自然から実際に体験したり、飼育したりしたことで、子どもたちの自然とのかかわり方や気付きの視点を高めることができ、学習が自分事として進めることができた。また、地域に遠賀川だけではなく、用水路やため池なども多数にあり、実際に足を運ぶことで木屋瀬地域に対する郷土愛も育むことができた。
- 3年前に発生した九州北部豪雨の災害は、子どもたちにとっても新しい記憶である。当時は、避難速報が出ていても危機感を感じなかったとっていた児童が、学習後には、いち早く避難することの大切さに気付くことができていた。子の変容は、水をテーマに学習したのみではなく、宿場町の歴史や河川事務所の方々の話の結果である。防災に取り組もうとする態度をもつことができたことは大きな成果として挙げられる。
- 子どもたちの学習が自分事として進めるためには、やはり導入の工夫や事象提示の吟味が必要である。地域教材をより開発して、子どもたちの興味、関心をくすぐることができるような単元構成を今後検討していきたい。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212	ふるさと木屋瀬の自然と共に 生きる子どもの育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 瀧上 正彦



フィールド：木屋瀬宿記念館

日付：2019.6.13

コメント：木屋瀬宿記念館には、宿場の歴史を語り継ぐボランティアの方々がおられる。また、当時の様子を写真で展示したり、実際に使用していたものを手に触れて感じることもできる。文面は難しい言葉も多いが、細かく説明していただいたので、子どもたちにとって学びが大きく深まった。また、運搬で使用していた小舟も展示されており、遠賀川との関係も感じることができた。



フィールド：木屋瀬座

日付：2019.7.19

コメント：科学フェスタでは、科学体験を20のブースに分けて体験活動を行ったため、子どもや保護者達は数多くの体験をすることができた。目を輝かせて体験する子どもたちのつぶやきに、「どうしてこうなるの?」「不思議だ。もっとやってみたい。」など、科学することに対する関心が高まっている発言があったことは成果である。



フィールド：鱒淵ダム支流（紫川源流）

日付：2019.10.04

コメント：自然教室で体験した川遊びでは、ライフジャケットとヘルメットを着用し、安全指導を徹底した中で活動をした。五感を使って自然の中で活動することで、水の押し流すはたらきや温度、また土地の様子や生き物など、たくさんのモノに興味をもって観察し、気づきを発見していた姿は、まさに自然から学ぶ子どもたちであった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212	ふるさと木屋瀬の自然と共に 生きる子どもの育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 瀧上 正彦



フィールド：木屋瀬小学校

日付：2019.10.21

コメント：専門の方の話では、日常生活や教科書では学ぶことができない、実際に現場で働く方の苦労を学ぶ貴重な学習となった。特に、九州北部豪雨の写真や、堤防決壊の原因、また、災害から暮らしを守ろうとする取り組みについては、普段目に見えていたけど、意識してみようとしていなかった堤防や川底の掘削作業など改めて焦点化されたため、子どもたちは実際に見たい！という好奇心を刺激することができた。



フィールド：遠賀川河川敷（中島橋付近）

日付：2019.10.25

コメント：遠賀川河川財団の方の講話の後、追及意欲が高まった子どもたちと一緒に、実際に遠賀川の河川敷を歩いた。すると、コンクリートで固められている個所や、堤防に色分けしてあり、水深を一目で知ることができる工夫、平らな地面が手入れされていることなど、当たり前を過ごしていた日常の中に防災の取組がたくさんあることに気づき、驚いていた。



フィールド：木屋瀬小学校

日付：2019.11.15

コメント：学習発表会では、今までの学びを劇にまとめた。外国語科の学習も本格的に始まっていることから、「外国人に木屋瀬宿のことを紹介する」というストーリーを位置付け、台本を作成した。江戸時代に遠賀川を白い象やラクダが渡った話を紹介すると、在校生や保護者の中から、「へえ～、知らなかった。」など、感嘆の声が漏れていた。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212	ふるさと木屋瀬の自然と共に 生きる子どもの育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 淵上 正彦

主な実施箇所	鱒渕ダム支流, 吉原川 (紫川源流)
--------	--------------------

助成事業の主な実施箇所



助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7212	ふるさと木屋瀬の自然と共に 生きる子どもの育成	北九州市立木屋瀬小学校 校長 淵上 正彦

主な実施箇所	遠賀川河川敷（中島橋付近）
--------	---------------

助成事業の主な実施箇所

